

巻頭言

環境プランニング学会は、「環境問題の解決に資する自然科学的及び社会科学的な調査研究、研究成果の普及啓蒙等を行うことにより、環境問題の解決と経済発展の両立を図る」ことを目的として、約2年前の2002年11月25日の設立記念総会をもって設立された。この学会では、特に「企業などにおける環境配慮を具体的に推進していく専門家『環境プランナー』の育成と高度化を図ること」を目指している。つまり、環境を科学的に解明し理解するのみならず、環境問題の解決に向けて企業などにおける環境配慮の行動を具体的に実現していくことを視野に入れた、理論と実践を包含する学会である。

現在、学会では環境プランナー養成のためのカリキュラム委員会と講師認定委員会の2委員会、および個別分野の活動を行うための環境IT分科会、環境企業評価分科会、会計人分科会、マーケティング分科会、コミュニティ・ガバナンス分科会、環境プランナー報告書推進分科会、地域環境プランナー分科会の7分科会などを置いて活動を展開している。既に、環境プランナー87人と環境プランナー-ER121人を養成し、環境問題に実践的に取り組める人材を社会に供給した。また、これまでの約2年間に学会は、第1回シンポジウム(2003.4.1)、第1回研究発表会(2003.7.16)、総会・研究会(2004.4.26)を始めとする様々なシンポジウムや研究会を開催し、環境問題に関する研究成果の集約を図るとともに、社会に向けて情報を発信してきた。学会活動の情報は学会員に配布されるネイチャーインタフェイスに掲載されている。これらはホームページ(<http://www.kankyo-planning.org/>)で紹介され、そこで環境プランナー資格の取得方法や学会への入会方法を知ることができる。

この度、これらの活動を総括し学会から研究情報を発信するため、環境プランニング学会論文集を発行することとした。第1号に掲載される論文は合計13編であるが、環境マネジメントシステムという枠組みに関する論文、経済・経営に関する論文、人材育成に関する論文、環境モニタリングなどの技術に関する論文などが採択されている。これらのそれぞれが環境問題の各課題に関する興味ある有用な情報を提供するものである。また、同時にこれらの全体を通じて、環境問題に対する社会の仕組みや技術的な可能性などの全体像が浮かび上がってくるものと思う。環境問題は間口が広く、奥行きが深い。その解決に向けた全体像を把握することは、分化された従来の学問体系からのアプローチでは困難である。この論文集に見られるように、企業の視点、行政の視点、大学・研究機関の視点などを総合してこそ、科学的かつ実践的な方向性が見えてくるであろう。

現在、特に若い人々にとって環境はこれからの長い人生を通じてつきあうことになるテーマである。これらの人々は環境を眺めて理解するという受動的な関係だけでは満足せず、行動を通じて能動的に関わることに魅力を感じるはずである。環境研究を通じてこの問題の解決の可能性や方向性を具体的に示すことにより、多くの若者を引きつけていくことも重要である。

この論文集が今後も多くのユニークな情報を持った投稿者を得て、幅広い読者・投稿者の活発な情報交換の場となり、環境問題の現実的な解決に貢献できるよう、諸兄姉のご支援を心からお願いする次第である。

2004年10月
環境プランニング学会会長
磯部雅彦